



ベトナム・ハノイ市

ハノイ道必携！ヘルメットと“あうんの呼吸”

世界銀行タスク・チーム・リーダー 鎌田卓也

WATCH FIRE

【開発途上国の明日】



ハノイ市ではオートバイの運転者はヘルメットを着用していない。当たり前のことと思われるかも知れないが、つい3年前まで、10人に1人ほどの着用率だった。

ベトナムでは二輪車が交通量の9割を占める。大都市の大通りでは、まるで川の流れるようにオートバイが絶え間なく続く。信号のない交差点に四方から同時に進入する車の間も、絶妙なタイミングですり抜ける。その運転技術には目を見はるが、やはり事故は頻発する。同国の車両1台当たりの死亡事故率は日本の10倍。その6割はオートバイ絡みだ。

交通事故の急激な増加に業を煮やした政府は、ここ数年、対策に本腰を入れてきた。国際機関や各国の支援を受け、事故多発地点の道路改修スピード違反の取り締まり強化などに着手した。ヘルメットの着用促進にはミスベトナムも動員して大キャンペーンを展開、約12000円の罰金も導入した。平均月収が80000円程度の国民には高額だ。こうした努力のかいあって、昨年の交通事故死者は全国で前年比1割以上、負傷者は2割減少した。

しかし、ハノイの道路を横断するには、今でも「あうんの呼吸」が欠かせない。互いに相手の動きを読み合いながら進み続け、ぎりぎりのところで衝突を避ける習慣に変わりはないのである。

(写真も筆者) ㊦